

教科に関する調査の結果概要

【小学校】

- ・国語A(知識)、国語B(活用)、算数B(活用)に改善が見られた。
- ・算数は、両区分で全国水準を維持し、算数B(活用)は昨年度からの改善が持続し、全国平均を超えた。
- ・堺版授業スタンダードを基にした能動的に学び考える授業改善の成果が表れつつある。

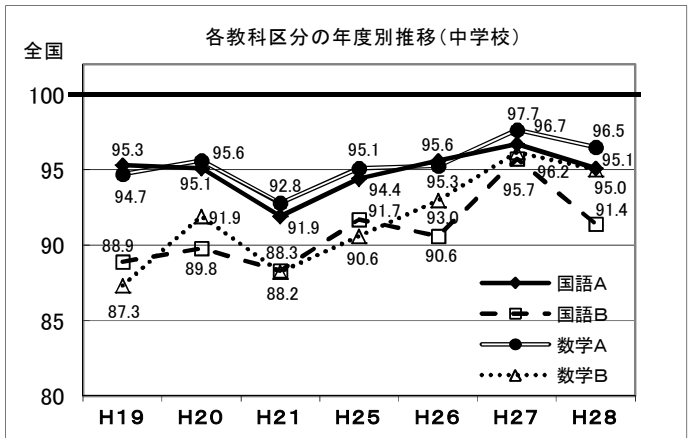
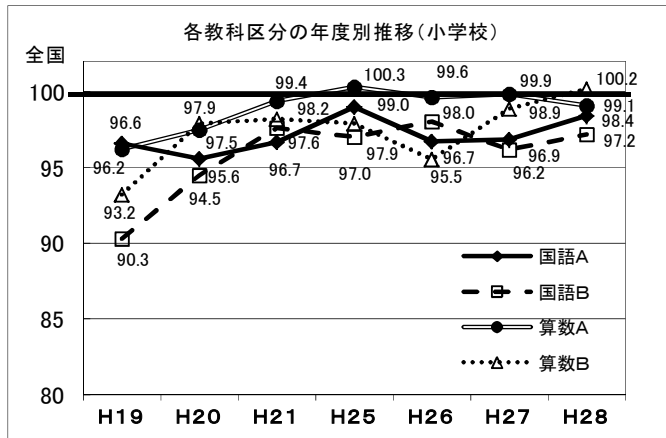
【中学校】

- ・国語A(知識)、国語B(活用)、数学A(知識)、数学B(活用)のすべての区分で全国平均を下回った。
- ・特に国語B(活用)は、全国との差があり課題が見られる。
- ・無解答率が引き続き減少しており、生徒は粘り強く問題に取り組んでいる。
- ・すべての教科で根拠をもって自分の考えを書いたり話し合ったりするなどの授業改善を図る必要がある。

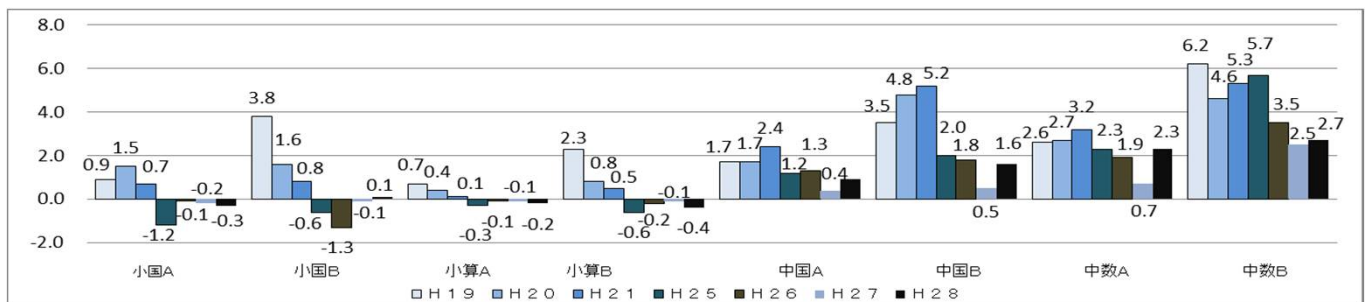
平均正答率の経年比較(全国と堺市)

		H19			H20			H21			H25			H26			H27			H28			
		全国	堺市	全国差	全国	堺市	全国差	全国	堺市	全国差	全国	堺市	全国差	全国	堺市	全国差	全国	堺市	全国差	全国	堺市	全国差	
小学校	国語	A区分	81.7	78.9	-2.8	65.4	62.5	-2.9	69.9	67.6	-2.3	62.7	62.1	-0.6	72.9	70.5	-2.4	70.0	67.8	-2.2	72.9	71.7	-1.2
		B区分	62.0	56.0	-6.0	50.5	47.7	-2.8	50.5	49.3	-1.2	49.4	47.9	-1.5	55.5	54.4	-1.1	65.4	62.9	-2.5	57.8	56.2	-1.6
	算数	A区分	82.1	79.0	-3.1	72.2	70.4	-1.8	78.7	78.2	-0.5	77.2	77.4	+0.2	78.1	77.8	-0.3	75.2	75.1	-0.1	77.6	76.9	-0.7
		B区分	63.6	59.3	-4.3	51.6	50.5	-1.1	54.8	53.8	-1.0	58.4	57.2	-1.2	58.2	55.6	-2.6	45.0	44.5	-0.5	47.2	47.3	0.1
中学校	国語	A区分	81.6	77.8	-3.8	73.6	70.0	-3.6	77.0	70.8	-6.2	76.4	72.1	-4.3	79.4	75.9	-3.5	75.8	73.3	-2.5	75.6	71.9	-3.7
		B区分	72.0	64.0	-8.0	60.8	54.6	-6.2	74.5	65.8	-8.7	67.4	61.8	-5.6	51.0	46.2	-4.8	65.8	63.0	-2.8	66.5	60.8	-5.7
	数学	A区分	71.9	68.1	-3.8	63.1	60.3	-2.8	62.7	58.2	-4.5	63.7	60.6	-3.1	67.4	64.2	-3.2	64.4	62.9	-1.5	62.2	60.0	-2.2
		B区分	60.6	52.9	-7.7	49.2	45.2	-4.0	56.9	50.2	-6.7	41.5	37.6	-3.9	59.8	55.6	-4.2	41.6	40.0	-1.6	44.1	41.9	-2.2
理科																	60.8	57.7	-3.1				

全国平均正答率を100とした場合の堺市平均正答率 経年比較(H19-H28)



無解答率における全国と堺市の差 経年比較





# 小学校国語

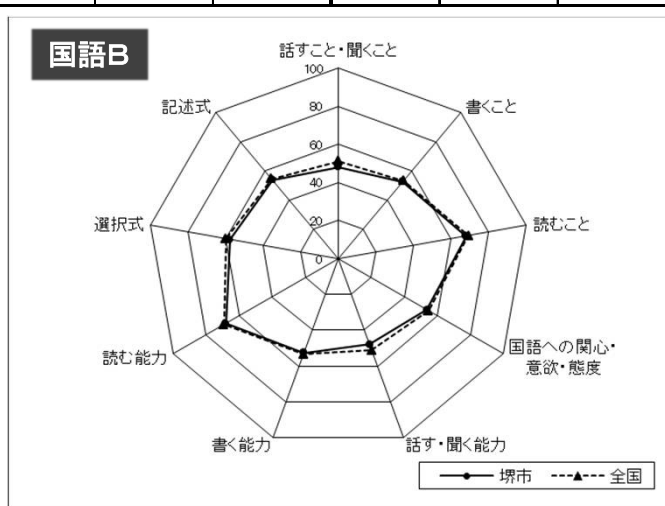
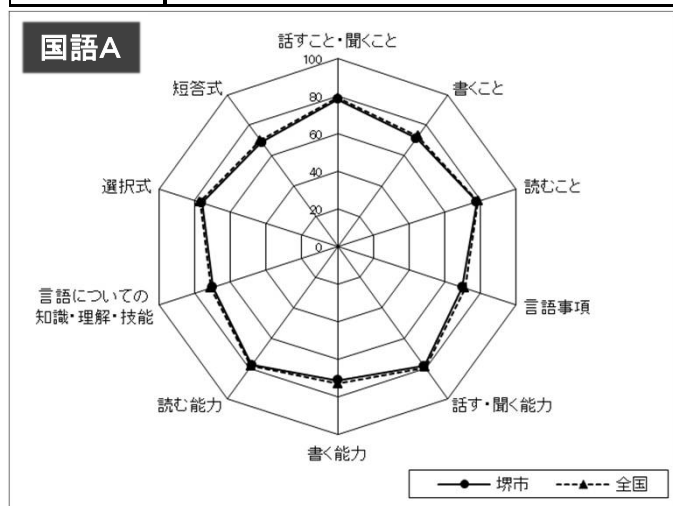
○A問題では「目的に応じて図と表とを関連付けて読む」問題、B問題では「グラフを基に、分かったことを的確に書く」問題で、全国と比べて正答率が高くなっており、説明的な文章や図表など様々な資料に触れさせるとともに、それらを活用する指導の成果が表れている。

●A問題では、「目的や意図に応じて、書く事柄を整理する」問題で正答率が低く、取材した事柄を文章の構成や記述に役立つように全体を見通して整理することに課題がある。

●B問題では「目的に応じて、質問したいことを整理する」問題で正答率が低く、インタビューの目的に応じて、質問する内容を工夫しながら整理することに課題がある。

## 領域・観点・問題形式別の結果（全国と堺市）

分類	区分	A問題（15問）			B問題（10問）		
		対象設問数	平均正答率（%）		対象設問数	平均正答率（%）	
			堺市	全国（公立）		堺市	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	78.4	79.2	3	48.0	51.1
	書くこと	2	71.1	72.8	6	52.6	53.4
	読むこと	2	77.8	78.5	3	68.1	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	69.9	71.1	0	—	—
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	4	53.8	54.7
	話す・聞く能力	1	78.4	79.2	3	48.0	51.1
	書く能力	2	71.1	72.8	6	52.6	53.4
	読む能力	2	77.8	78.5	3	68.1	69.3
	言語についての知識・理解・技能	10	69.9	71.1	0	—	—
問題形式	選択式	6	76.0	77.2	6	57.8	59.9
	短答式	9	68.8	70.0	0	—	—
	記述式	0	—	—	4	53.8	54.7



■ A B問題ともに、概ね全国と同様の傾向が見られる。B問題では、「話すこと・聞くこと」の正答率が低く、課題である。

## 今後の取組

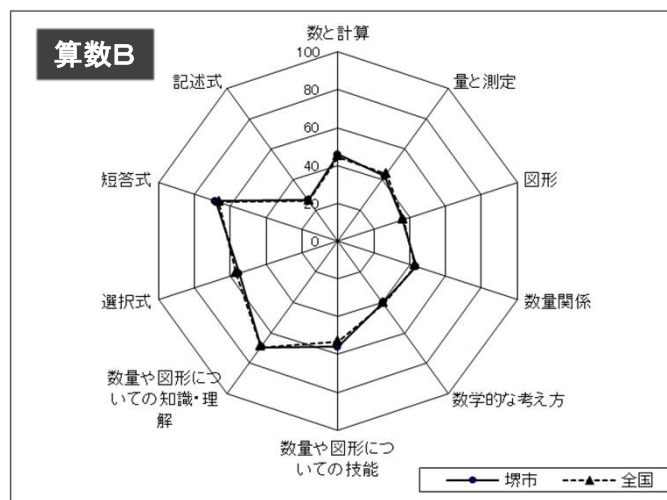
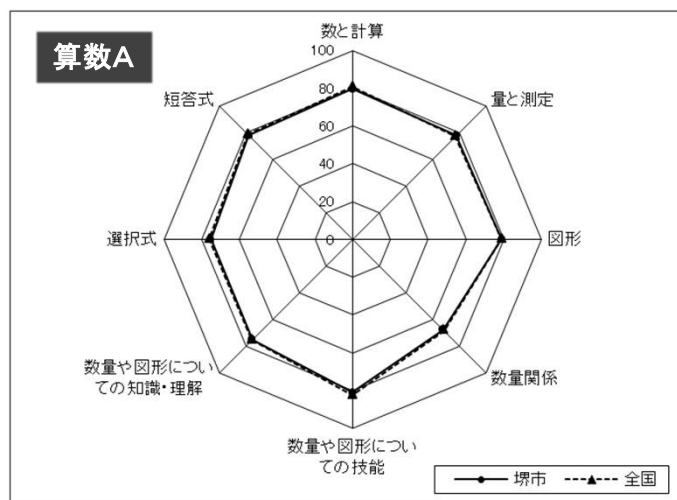
- 取材の対象や方法として、本や文章、パンフレットやリーフレット、雑誌や新聞、音声や映像、インタビューやアンケートなど様々なものを取り上げ、必要な事柄を収集・選択できるよう指導を充実させる。
- グループやペアなど学習形態を工夫し、取材の内容や方法を互いに評価し合うことで、収集した事柄が目的や意図に応じたものになっているか考えることができるように指導する。
- インタビューを行う際は、知りたいことを漏らさずに聞くことができるよう、調査の目的に応じて質問の具体的な内容や順序などを考えていくとともに、相手の答えに応じた質問ができるように指導を充実させる。

# 小学校算数

- A問題では、全国水準を維持し、基礎的・基本的な内容の定着を図る取組の成果が表れている。「小数」の計算(特に除法)に関する問題が、引き続き課題である。
- B問題では、全国平均を超え、言葉、数、図や表と関連づけて説明する指導を丁寧に行った成果が表れている。きまりを発展的に考察したり、問題解決のために必要な情報を判断したりすることに課題がある。

## 領域・観点・問題形式別の結果 (全国と堺市)

分類	区分	A問題(16問)			B問題(13問)		
		対象設問数	平均正答率(%)		対象設問数	平均正答率(%)	
			堺市	全国(公立)		堺市	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と計算	10	79.4	80.5	6	45.6	44.4
	量と測定	2	77.7	77.0	5	42.3	43.7
	図形	2	78.8	78.8	3	36.1	36.3
	数量関係	3	67.7	68.5	6	43.4	42.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	0	—	—
	数学的な考え方	0	—	—	9	40.5	40.9
	数量や図形についての技能	5	81.1	82.5	2	56.1	53.3
	数量や図形についての知識・理解	11	75.0	75.4	2	69.4	69.5
問題形式	選択式	5	75.0	75.8	5	55.2	56.7
	短答式	11	77.8	78.5	3	68.4	66.4
	記述式	0	—	—	5	26.8	26.2



■ A問題の「量と測定」領域、B問題の「数と計算」「数量関係」領域については、良好な結果となっている。B問題の「数学的な考え方」で、全国水準となり、問題解決的な学習を充実させた成果が表れている。

## 今後の取組

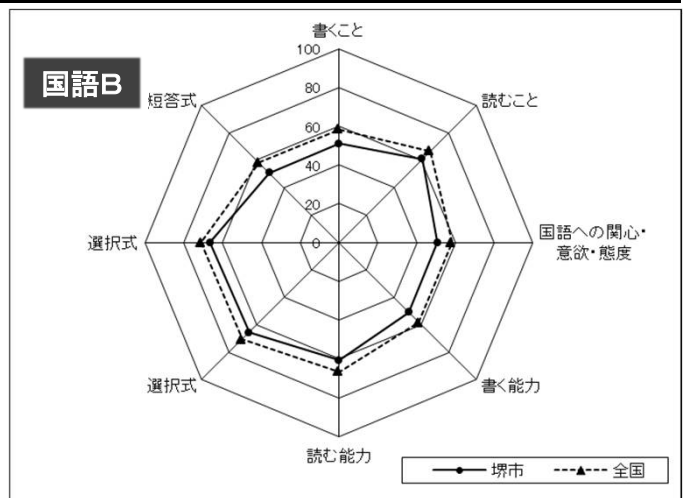
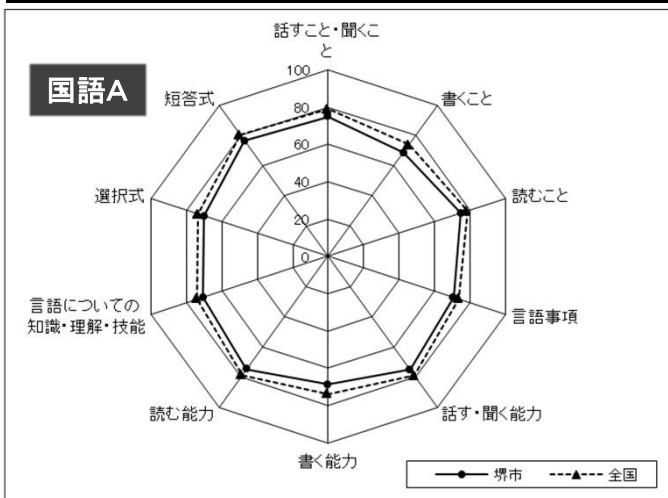
- 目的に応じて計算の結果の見積りをする場を適宜位置づけ、計算の仕方や結果について判断する活動を重視し、計算技能の確実な定着を図る。
- 解決したい問題を明確にして、解決するために必要な情報を収集する活動を取り入れ、集めた資料を分類・整理して表に表したり、読み取ったりする活動を取り入れる。
- 問題を解き終えた後、問題の条件や数値を一部変更した問題で考えたり、説明したり、適用問題を解いたりして、自分の考えの妥当性やよりよい考えについて振り返るとともに、学んだことのよさを実感し、活用できるようにする。

# 中学校国語

- 「文の修飾・被修飾の関係を理解する」問題は、全国平均と同程度である。
- A・B問題ともに、「文章や資料をもとに、根拠を明確にして自分の考えを書く」問題は、全国平均を大きく下回り、昨年度に引き続き課題である。また、無解答率も高い。
- 「文脈に即して漢字を正しく書く」問題（ドクソウ的な考え）や、「（書写）文字の形や大きさ、配列に注意して書く」問題は正答率が低く、課題である。

## 領域・観点・問題形式別の結果（全国と堺市）

分類	区分	A問題（33問）			B問題（9問）		
		対象 設問数	平均正答率（%）		対象 設問数	平均正答率（%）	
			堺市	全国（公立）		堺市	全国（公立）
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	6	74.9	78.9	0	—	—
	書くこと	4	68.7	73.7	3	50.9	58.3
	読むこと	6	74.8	78.6	9	60.8	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	70.7	73.9	0	—	—
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	3	50.9	58.3
	話す・聞く能力	6	74.9	78.9	0	—	—
	書く能力	4	68.7	73.7	3	50.9	58.3
	読む能力	6	74.8	78.6	9	60.8	66.5
	言語についての知識・理解・技能	17	70.7	73.9	0	—	—
問題形式	選択式	23	70.0	73.5	5	65.5	70.6
	短答式	10	76.4	80.5	1	66.4	71.1
	記述式	0	—	—	3	50.9	58.3



■全領域・評価の観点・問題形式で、全国平均を下回っている。特に全国平均との差が大きいのは、「書くこと」の領域、「国語への関心・意欲・態度」と「書く能力」の観点、「記述式」の問題形式である。

## 今後の取組

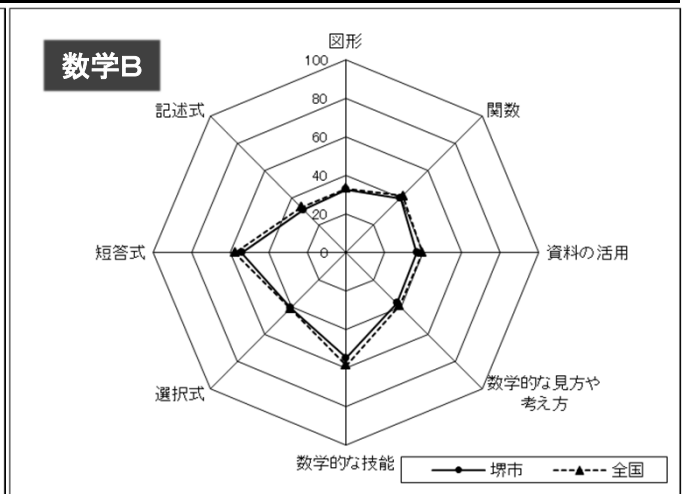
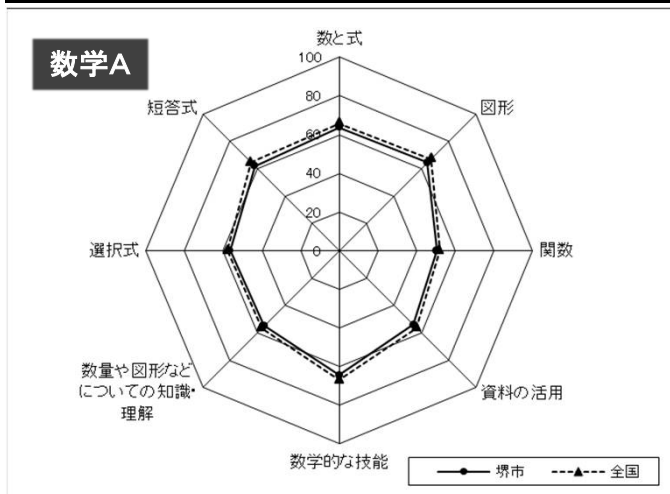
- 文章のどの部分に着目したのか等、根拠を明確にして自分の考えを説明したり、ノートに書いたりする活動を充実させる。
- 実用的な文章から情報を読み取ったり、学校図書館等を活用して情報を収集したりする学習を位置付け、他教科との関連を図った指導を充実させる。
- 既習の漢字を、「書くこと」「読むこと」の学習と関連付けて積極的に使用するよう指導し、基礎的・基本的な内容の定着に向けた反復学習を継続的に行う。
- 書写の学習において、互いに書いたものについて相互評価する場面を設ける。その際には、「字形」「大きさ」「配列」などの観点を示した上で、見比べさせる。

# 中学校数学

- A・B問題ともに、昨年度に比べ、全国平均との差が広がった。特に昨年度成果が見られた「関数」において課題が見られた。
- A問題では、「数と式」の方程式、「図形」の記号を使った表現、「資料の活用」の最頻値の読み取りに課題が見られた。
- B問題では、「数と式」の与えられた情報から数学的な表現を用いて説明する問題、「関数」の1次関数の性質を利用する問題に課題が見られた。

## 領域・観点・問題形式別の結果（全国と堺市）

分類	区分	A問題（36問）			B問題（15問）		
		対象 設問数	平均正答率（%）		対象 設問数	平均正答率（%）	
			堺市	全国（公立）		堺市	全国（公立）
学習指導要領 の領域	数と式	12	63.8	65.9	6	48.6	51.5
	図形	12	64.4	67.1	2	32.8	33.3
	関数	8	50.4	52.0	5	39.6	41.4
	資料の活用	4	54.3	56.5	2	36.6	39.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	0	—	—
	数学的な見方や考え方	0	—	—	11	37.2	38.9
	数学的な技能	19	64.4	66.9	4	54.8	58.5
	数量や図形などについての知識・理解	17	55.0	56.8	0	—	—
問題形式	選択式	13	56.5	57.8	2	40.8	41.3
	短答式	23	61.9	64.6	6	54.3	57.8
	記述式	0	—	—	7	31.5	33.1



- A・B問題ともに、概ね全国と同様の傾向が見られるが、昨年度と比べ、「関数」では、全国平均との差が広がった。また、「資料の活用」では、全国平均との差が大きく、引き続き課題となっている。

## 今後の取組

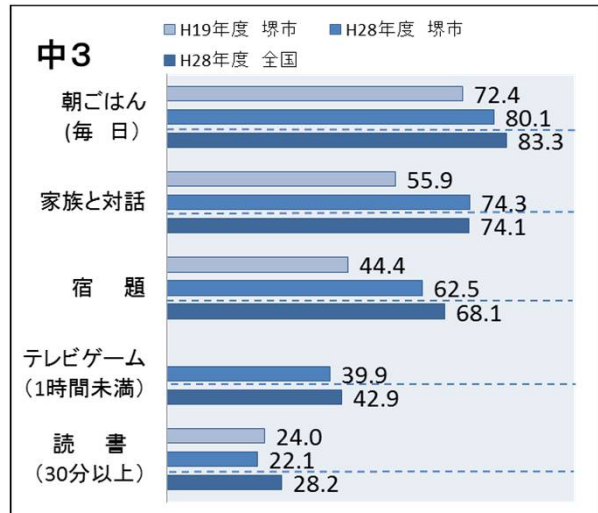
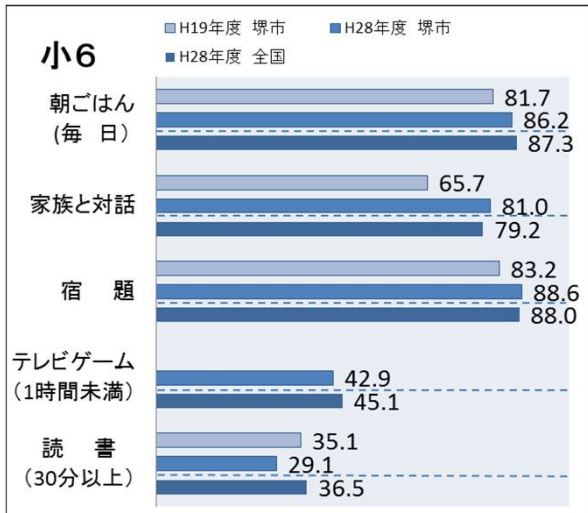
- 数学的な技能の定着が図れるよう、ふりかえり活動や定着問題を習慣的に行う。また、学習した知識を用いて、考察するレポートを作成するなど、授業とつながる家庭学習を設定する。
- 与えられた情報から数学的な表現を用いて説明することができるよう、生徒が考え、表現する活動を充実させ、その活動を評価し、生徒の学習意欲の向上を図る。

# 学習・生活状況に関する調査の結果概要

## ◆家での7つのやくそく ～「家で、学校の宿題をしている」が小中学校ともに増加～

小中学校ともに、3つの質問(朝ごはん、家族と対話、宿題)については、10年前の調査より肯定的な回答が増加している。特に、「家族との対話」は全国平均を上回っている。「7つのやくそく」「家庭学習のてびき」「自主学習ノートの活用」などの取組の成果が表れている。

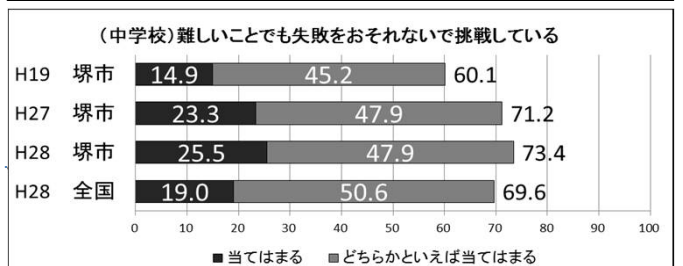
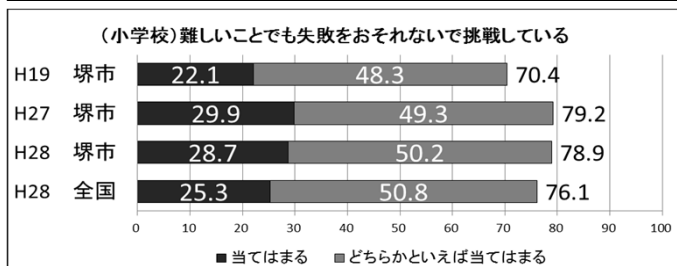
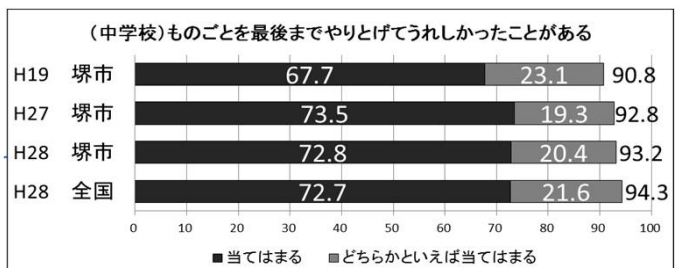
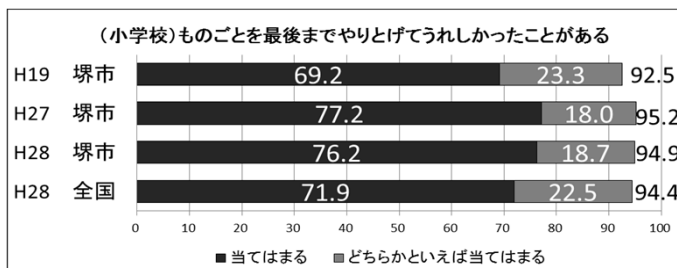
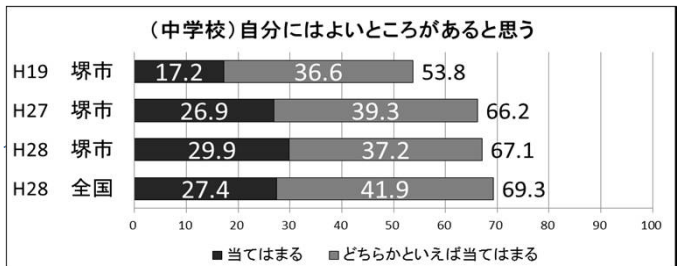
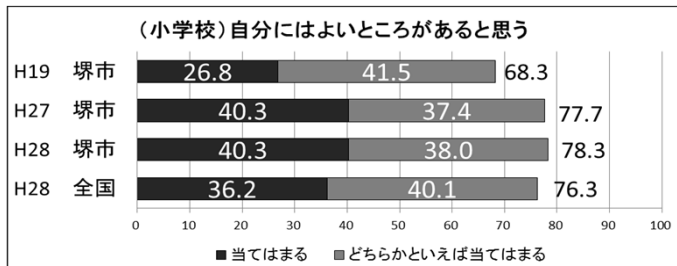
小中学校ともに、テレビゲーム、読書の時間が課題となっており、家庭と連携を強化した改善が必要である。



## ◆自尊感情の醸成 ～「挑戦している」と思う割合は全国平均を上回る～

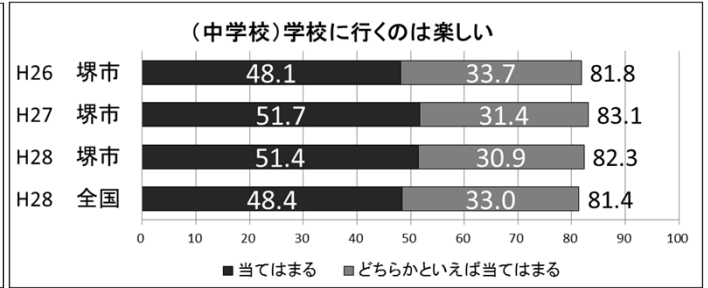
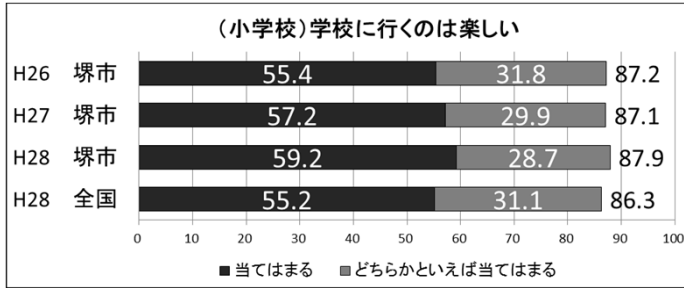
小中学校とも「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」と肯定的に回答する児童生徒の割合は、全国平均を上回り、また、「自分にはよいところがあると思う」と肯定的に回答する児童生徒の割合も、平成19年と比べると小学校は10ポイント、中学校は約13ポイント向上している。

自尊感情に関する下記の項目全般で、全国と比べて同水準か上回る結果となった。すべての教育活動で、「居場所と出番」を意識して、自尊感情を醸成する取組を進めた成果がみられた。



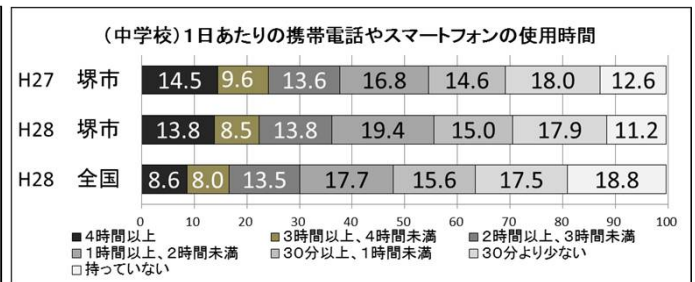
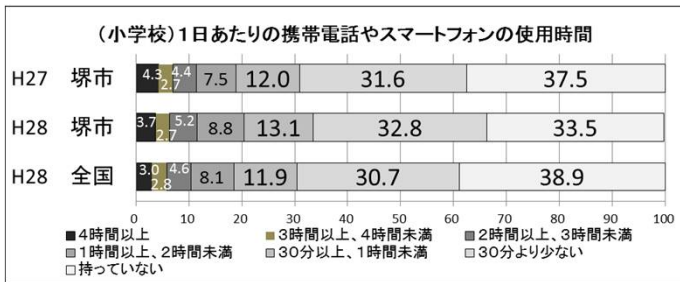
## ◆安心できる教育環境づくり ～引き続き、人権尊重を基盤とした教育活動を推進する～

昨年に引き続き、「学校に行くのは楽しい」と肯定的に答えた児童生徒の割合が全国を上回るなど、安心できる教育環境づくりに関する項目は向上している。引き続き、人権尊重を基盤とした温かい集団づくりや居場所と出番のある授業づくりに取り組む。



## ◆増加するスマートフォン等の使用時間 ～家庭と連携した指導を進める～

1日当たりの携帯電話やスマートフォンの使用時間では、1時間以上使用している児童生徒の割合が、小学校で20.4%、中学校で55.5%であり、全国を上回っている。子どもたち自らが時間や約束を決めて使用できるよう、「堺市立学校 スマホ・ネットルール5 まもるんや さかい」を活用する等、学校・家庭・地域総がかりで粘り強く指導していく必要がある。



## ◆毎日取り組む自律的な家庭学習 ～家で全く勉強しない児童生徒は全国の2倍～

1日あたりの勉強時間で、全くしない児童生徒の割合が全国平均の約2倍程度である。特に中学校では、毎日家庭学習に取り組む習慣を定着させる必要がある。また、家で授業の復習をしている児童生徒の割合が全国平均を下回った。授業の復習など自ら考えて学習する習慣の定着は、学びを自律的に管理する能力の育成につながる。家庭学習と関連づけた授業づくりを進めるとともに、家庭との連携を強化する必要がある。

